

沖縄の技術シーズを 活かした地域産業活性化

アグリ技術シーズセミナーは、農林水産・食品分野で、新たな産学連携を推進するため、最新の研究情報等の発信を行うセミナーです。

今回は「沖縄の技術シーズを活かした地域産業活性化」をテーマとして、特別講演、シーズ紹介を行います。セミナー終了後には、講師やコーディネーターとの個別相談会も開催します。

参加費は無料です。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

日時：平成29年11月29日（水）13：30～17：30

会場：沖縄県立博物館 講座室（沖縄県那覇市おもろまち3-1-1）

主催：（公社）農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）

共催：沖縄農業研究会

申込方法：JATAFFのHPからお申し込みください。

<http://jataff.jp/news/seminar/index.html#okinawa1129>

申込締切：平成29年11月24日（金）

※当日、会場に余裕がある場合に限り、事前申込なしでのご入場も可能です。

参加
無料

プログラム ※講演の概要は裏面をご覧ください。

【挨拶】（公社）農林水産・食品産業技術振興協会 主任調査役 羽藤 公一 13:30～13:35
（農林水産省産学連携支援コーディネーター）
沖縄農業研究会 会長 上野 正実 氏
（琉球大学 農学部 教授）

【特別講演】

「作物育種の効率化を目指した沖縄県の取り組み」 13:35～14:20
浦崎 直也 氏（沖縄県農業研究センター 研究企画班 班長）

【シーズ紹介】

1) 「ICT & IoTを基盤とした果実生産システム」 14:20～14:50
殿岡 裕樹 氏（琉球大学 研究推進機構 研究企画室 上席リサーチ・アドミニストレーター）

2) 「加工用カンショ新品種『沖育09-8-14』の 14:50～15:20
特性と利用について」
謝花 治 氏（沖縄県農業研究センター 作物班 主任研究員）

3) 「新規抗菌防藻材 ABCoat」 15:30～16:00
大北 正信 氏（大阪ガスケミカル株式会社 フロンティア マテリアル研究所）

4) 「沖縄アグー豚の品種特性とブランド化へ向けた研究・取り組み」 16:00～16:30
當眞 嗣平 氏（沖縄県畜産研究センター 飼養・環境班 主任研究員）

5) 「商品開発から販売までの実例 16:30～17:00
～シーズを活用する中小企業の立場から～」
篠原 辰明 氏（株式会社食のかけはしカンパニー 代表取締役）

【個別相談会】

17:00～17:30

共同研究形成等に向けた連携相談、技術相談に講師やコーディネーターが対応致します。

（セミナーにおいて紹介する内容に関するご相談以外にも、農林水産・食品分野の研究に関するご相談全般に対応致します）

【特別講演】

「作物育種の効率化を目指した沖縄県の取り組み」

浦崎 直也 氏（沖縄県農業研究センター 研究企画班 班長）

沖縄県では、パインアップル、マンゴー、パパイヤなどの熱帯果樹や、ニガウリ、ヘチマなどの沖縄伝統の野菜が栽培されている。中でもマンゴーやニガウリは日本各地で盛んに栽培され、他県産地の台頭著しい状況にある。沖縄県では、他県産地との差別化を目的に新品種の育成に取り組んでいるが、品種育成には長期間が必要となるため、育種を効率化する技術が求められてきた。本講演では、育種の効率化のために開発したDNAマーカーとその利用について紹介する。

【シーズ紹介】

① 「ICT & IoTを基盤とした 果実生産システム」

殿岡 裕樹 氏（琉球大学 研究推進機構）

[発表内容]

マンゴーなどのトロピカルフルーツやイチゴをターゲットとし、CO₂施用やLED補光、環境計測や遠隔操作などICTを活用した施設園芸における栽培支援システムの開発について紹介する。

[マッチングの方向性]

◆技術移転先を見つけたい

[マッチングを想定する対象]

◆農林漁業関係者

② 「加工用カンショ新品種 『沖育09-8-14』の特性と利用について」

謝花 治 氏（沖縄県農業研究センター）

[発表内容]

沖縄県では、平成28年に多収で白色ペースト加工用のカンショ新品種を育成した。今回、本品種の特性と、沖縄農産物を含む他食材とのコラボレーションなど多様な商品開発に向けた試行事例を紹介する。

[マッチングの方向性]

◆製品化する相手を見つけたい

[マッチングを想定する対象]

◆製造業（食品製造業）
◆農林漁業関係者

③ 「新規抗菌防藻材 ABCoat」

大北 正信 氏（大阪ガスケミカル株式会社
フロンティア マテリアル研究所）

[発表内容]

成分が非溶出で周辺環境を汚染することなく抗菌防藻機能を発揮する「ABCoat」を開発した。基材は樹脂であれば特に種類を選ばないことを特徴とする。水耕栽培への用途展開で安心安全な農作物生産を可能にする。

[マッチングの方向性]

◆製品化する相手を見つけたい

[マッチングを想定する対象]

◆共同研究機関
◆製造業（水耕栽培・資材メーカー等、抗菌資材メーカー）

④ 「沖縄アグー豚の品種特性と ブランド化へ向けた研究・取組み」

當眞 嗣平 氏（沖縄県畜産研究センター）

[発表内容]

沖縄アグー豚は、古くから沖縄で飼養されている小柄な豚である。生産性は劣るものの、優れた肉質特性を持ち、地域の遺伝資源として大変重要である。沖縄アグー豚を活用したブランド化へ向けた研究・取組みを紹介する。

[マッチングの方向性]

◆共同研究相手を見つけたい
◆技術移転先を見つけたい

[マッチングを想定する対象]

◆共同研究機関
◆農林漁業関係者

⑤ 「商品開発から販売までの実例 ～シーズを活用する中小企業の立場から～」

篠原 辰明 氏（株式会社社会のかけはしカンパニー）

[発表内容]

後発のメーカーであればあるほど、特長ある食品を開発し、ニッチな市場を狙っていくことが重要。そのためにユニークなシーズを活用したいが、簡単にはいかないのが実情。中小企業の実態を見ていただき、今後の参考にさせていただきたい。

[マッチングの方向性]

◆共同研究相手を見つけたい

[マッチングを想定する対象]

◆共同研究機関

【会場へのアクセス】



会 場：沖縄県立博物館 講座室

住 所：沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

TEL：098-941-8200

交 通：沖縄都市モノレール「ゆいレール」

おもろまち駅下車徒歩10分

那覇メインプレイス向かい

【事務局】

（公社）農林水産・食品産業技術振興協会

産学連携事業部 川畑・酒井・佐藤

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル7階

TEL：03-3586-8644 FAX：03-3586-8277

E-mail：renkei-seminar@jataff.jp